

消化器外科に、過去に通院・入院された患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。この研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年3月23日制定、令和5年3月27日一部改正。)に従って実施しています。この研究に関するお問い合わせや、診療情報をこの研究に利用することにご了承いただけない場合は、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。診療情報の利用にご了承いただけなかった場合でも、それが理由で不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名]

食道亜全摘術における再建法別の合併症と栄養状態に関する後方視的検討

[研究の目的]

食道癌手術では、食道を切除摘出後、残った食道と胃を縫合(つなぎ合わせる)して、再度食事の通り道を作ります(再建)。食道と胃の縫合部は、縫合不全(つなぎ目がくっつかない)の発生率が比較的高く、これまでに多くの工夫や改良がなされてきました。また、再建のために用いる臓器には胃が多いですが、胃の形やつなぐ方法は、施設ごとに工夫がなされているのが現状ですが、未だゴールドスタンダードな再建法は確立されておらず、多くの課題が残されています。再建方法による合併症率の違いのみならず、術後の栄養状態、体重変化などのQOLに関する治療成績を検討し、食道癌手術後の最適な再建方法を探索することを目的としています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2018年1月1日から2025年8月31日の間に研究者の所属機関で、食道癌に対して1期的に食道亜全摘、胃管再建を実施した患者さん。

○利用する診療情報

【登録時の調査項目】

年齢、性別、術前の体重、身長、BMI、Alb値

【手術治療の調査項目】

腫瘍の臨床診断(location、深達度、リンパ節転移、遠隔転移、病期)、術前化学療法の有無、術式、胃管再建の詳細(胃管形状、吻合法、再建経路)、

【術後の調査項目】

経鼻胃管の留置期間、経鼻胃管の減圧方法、腸瘻の留置期間、吻合に関連する合併症(縫合不全、吻合部狭窄)、術後1か月、術後3か月、術後6か月、術後1年目までの体重、BMI、Alb値

○上記情報の利用開始予定日

倫理委員会承認日

[研究責任者名・所属]

岡野 圭一 (香川大学医学部附属病院消化器外科、教授)

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院 消化器外科 担当医師 岸野貴賢

電話 087-891-2438 (直通) FAX 087-891-2439 (直通)